

(議案第1号関係)

平成30年度
事業報告書

平成30年 4月 1日から
平成31年 3月31日まで

第 1 一般会務

1. 会員

(1) 正会員 27団体

ア. 寄託会員 19団体

北海道。ホクレン農業協同組合連合会。北海道農業共済組合連合会。一般社団法人ジェネテイクス北海道。十勝管内家畜自衛防疫推進協議会。空知地区家畜自衛防疫推進協議会。上川地区家畜自衛防疫連絡協議会。石狩地区家畜自衛防疫推進協議会。釧路地区家畜自衛防疫連絡協議会。日高家畜衛生防疫推進協議会。後志家畜自衛防疫推進協議会。留萌地区家畜畜産物自衛防疫推進協議会。根室家畜伝染病自衛防疫推進協議会。胆振家畜自衛防疫推進協議会。オホーツク家畜自衛防疫推進協議会。公益社団法人北海道獣医師会。檜山地区家畜自衛防疫推進協議会。渡島地区家畜伝染病自衛防疫推進協議会。宗谷地区家畜自衛防疫推進協議会。

イ. 会費会員 8団体

北海道農業協同組合中央会。一般社団法人北海道酪農畜産協会。北海道ホルスタイン農業協同組合。北海道町村会。北海道乳質改善協議会。一般社団法人北海道酪農協会。北海道養鶏会議。一般社団法人ばんえい競馬馬主協会。

(2) 賛助会員 9団体

北海道信用農業協同組合連合会。雪印メグミルク株式会社。日高軽種馬農業協同組合。株式会社明治。よつ葉乳業株式会社。北海道動物器薬協会。北海道乳業株式会社。胆振軽種馬農業協同組合。一般社団法人北海道養豚生産者協会。

2. 役員の変動

第46回通常総会で役員任期満了に伴う役員選任並びに第2回理事会で会長等の選定が行われ、次の方々が就任された。

役職名	氏名	所属団体	備考
会長	岡田恒博	北海道農業共済組合連合会	
副会長	高橋徹	(公社)北海道獣医師会	
副会長	福士正二郎	ホクレン農業協同組合連合会	
専務理事	武内弘之	(公社)北海道家畜畜産物衛生指導協会	
理事	酒井利夫	北海道養鶏会議	
理事	伊藤栄一	石狩地区家畜自衛防疫推進協議会	
理事	井澤春雄	上川地区家畜自衛防疫連絡協議会	
理事	駒澤弘義	日高家畜衛生防疫推進協議会	
理事	齊藤哲	十勝管内家畜自衛防疫推進協議会	
代表監事	北村健	(一社)北海道酪農畜産協会	
監事	林亮年	北海道農業協同組合中央会	

3. 通常総会の開催

第46回通常総会を平成30年5月31日に札幌市西区二十四軒4条5丁目の北海道獣医師会館で開催、議案及び決議事項は次のとおり。

- (1) 平成29年度事業及び決算の承認について
- (2) 平成30年度事業計画、収支予算の報告について
- (3) 平成30年度会費の賦課額と徴収方法の決定について
- (4) 平成30年度役員報酬の承認について
- (5) 平成30年度借入金の最高限度額の承認について
- (6) 役員の変更について

4. 理事会の開催

第1回理事会 平成30年5月15日 北海道獣医師会館

- (1) 第46回通常総会について
- (2) 第46回通常総会提案内容の承認について
- (3) 特定資産取得資金の保有について
- (4) 職務執行状況の報告について

第2回理事会 平成30年5月31日 北海道獣医師会館

- (1) 会長、副会長、専務理事、代表監事監事の選定について
- (2) 平成30年度役員報酬執行案の承認について
- (3) 平成29年度事業報告書提出の承認について

第3回理事会 平成30年12月5日 北海道獣医師会館

- (1) 平成30年度上半期財務状況の報告について
- (2) 平成30年度各事業の進捗状況の報告について
- (3) 寄託金の運用状況の報告について
- (4) 職務執行状況の報告について
- (5) 協会給与規程の一部改正について

第4回理事会 平成31年3月12日 北海道獣医師会館

- (1) 平成31年度事業計画案の承認について
- (2) 平成31年度発生予防事業対価案の承認について
- (3) 平成31年度収支予算案の承認について
- (4) 第47回通常総会の開催案の承認について

6. 寄 託 金

金 66,800,000 円 (334口) 一口 200,000 円

寄 託 会 員 名	口 数	寄 託 額
北 海 道	125 口	25,000 千円
ホクレン農業協同組合連合会	150	30,000
北海道農業共済組合連合会	25	5,000
一般社団法人ジェネティクス北海道	10	2,000
十勝管内家畜自衛防疫推進協議会	1	200
上川地区家畜自衛防疫連絡協議会	1	200
空知地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
石狩地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
釧路地区家畜自衛防疫連絡協議会	1	200
日高家畜衛生防疫推進協議会	1	200
後志家畜自衛防疫推進協議会	1	200
留萌地区家畜畜産物自衛防疫推進協議会	1	200
根室家畜伝染病自衛防疫推進協議会	1	200
胆振家畜自衛防疫推進協議会	1	200
オホーツク家畜自衛防疫推進協議会	1	200
公益社団法人北海道獣医師会	10	2,000
檜山地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
渡島地区家畜伝染病自衛防疫推進協議会	1	200
宗谷地区家畜自衛防疫推進協議会	1	200
計 (19団体)	334	66,800

7. 会 費

金 570,000 円

会 費 会 員	会 費 額	賛 助 会 員	会 費 額
北海道農業協同組合中央会	千円 50	北海道信用農業協同組合連合会	千円 100
一般社団法人北海道酪農畜産協会	60	雪印メグミルク株式会社	30
北海道ホルスタイン農業協同組合	50	日高軽種馬農業協同組合	50
北海道町村会	20	株式会社 明治	30
北海道乳質改善協議会	20	よつ葉乳業株式会社	30
一般社団法人北海道酪農協会	10	北海道動物器薬協会	30
北海道養鶏会議	10	北海道乳業株式会社	20
一般社団法人ばんえい競馬馬主協会	20	胆振軽種馬農業協同組合	20
		一般社団法人北海道養豚生産者協会	20
計 (8団体)	240	計 (9団体)	330

第 2 事業実施成績

1. 発生予防事業(公益目的事業、収益事業等)

次頁のとおり下記事業による予防接種を実施。

(1) 補助事業発生予防事業(農林水産省 家畜生産農場清浄化支援対策事業:公益目的事業)

ア. アカバネ病

(2) 特定疾病発生予防事業(北海道衛指協事業:公益目的事業)

ア. 牛5種混合(生)(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス・牛アデノ7型ウイルス)

イ. 牛5種混合(不)(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス)

ウ. 牛6種混合(生)(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス・牛アデノ7型ウイルス)

エ. 牛6種混合(牛伝染性鼻気管炎・牛ウイルス性下痢粘膜病2価・牛パラインフルエンザ・牛RSウイルス・牛アデノ7型ウイルス)

オ. 牛嫌気性菌3種、牛5種(生)混合同時

カ. 牛嫌気性菌3種、牛5種混合(不)同時

キ. 牛嫌気性菌3種、牛6種混合(生)同時

ク. 牛嫌気性菌3種、牛6種混合同時

ケ. 牛嫌気性菌3種

コ. 牛下痢5種混合(不)

サ. ニューカッスル病(生)

シ. ニューカッスル病・鶏伝染性気管支炎混合

ス. 馬3種混合(日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ)

セ. 日本脳炎(馬)

ソ. 馬インフルエンザ

タ. 破傷風(馬)

チ. 馬鼻肺炎(生、不)

ツ. 豚丹毒(生、不)

テ. 豚流行性下痢(PED)

ト. 豚伝染性胃腸炎(TGE)・豚流行性下痢混合

(3) 育成馬等予防接種推進事業(中央畜産会助成事業:収益事業等)

ア. 馬3種混合(日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ)

イ. 日本脳炎(馬)

ウ. 馬インフルエンザ(競走馬)

(4) 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業(中央畜産会助成事業:収益事業等)

ア. 馬鼻肺炎(妊娠馬)

イ. 馬インフルエンザ(農用馬、乗用馬等)

平成30年度 発生予防事業実績集計表

(単位:頭、羽)

疾 病 名	計 画 (A)	実 績 (B)	計 画 比 (B/A)
豚 丹 毒	115,900	109,191	94.2
豚伝染性胃腸炎(TGE)・ 豚流行性下痢(PED)混合	0	0	
ニューカッスル病	129,000	123,000	95.3
牛伝染性鼻気管炎	572,700	570,872	99.7
牛嫌気性菌3種	88,700	86,175	97.2
アカバネ病	6,300	6,105	96.9
牛下痢5種混合	35,000	40,839	116.7
馬3種混合	25,800	26,473	102.6
日本脳炎(馬)	4,500	4,524	100.5
馬インフルエンザ	12,200	12,050	98.8
馬鼻肺炎(生)	12,300	14,494	117.8
馬鼻肺炎(不)	3,600	916	25.4
馬破傷風	0	0	
合 計	1,006,000	994,639	98.9

(地区別内訳は別紙1)

2. 平成30年度 検査推進事業（農林水産省補助事業：公益目的事業）

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業

ア. 疾病清浄化支援対策

(ア) 牛疾病防疫支援対策

○ ヨーネ病自主検査

移動牛等を対象に、自主検査(血清反応・培養検査)を関係機関の協力により実施。

・自主検査 乳用牛 2,026頭 肉用牛 20,451頭 合計 22,477頭

(内訳は表①のとおり)

○ ヨーネ病発生農場における自主とう汰

ヨーネ病発生農場飼養牛の自主的などう汰を関係機関の協力により実施。

乳用牛 94頭 肉用牛 38頭 合計 132頭 (内訳は表①のとおり)

○ 牛白血病の検査、自主とう汰

牛白血病発生農場や公共牧場の検査及びハイリスク牛の自主とう汰や吸血昆虫駆除対策を関係機関の協力により実施。

・発生農場の検査 8農場 264頭

・ハイリスク牛の自主とう汰 3農場 14頭

・公共牧場の検査 1牧場 129頭

・公共牧場の吸血昆虫対策 9牧場

○ 牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)対策

BVD-MD発生農場等の検査、予防接種、持続感染牛の自主淘汰などを関係機関の協力により実施。

・発生農場の検査 4農場 166頭

・発生農場の緊急予防接種 2農場 107頭

・持続感染牛の自主淘汰 101農場 128頭 (内訳は表②のとおり)

(イ) 豚疾病防疫支援対策

種豚生産農場のオーエスキー病抗体検査、証明書の発行などを関係機関の協力により実施。

・抗体検査、証明書の発行 3農場 40頭

(ウ) 地域慢性疾病清浄化支援対策

牛マイコプラズマ乳房炎の清浄化のため、関係者が一体となった取り組みなどに助成を実施。

・実施団体 JAオホーツクはまなす

・検討会、講習会の開催 検討会は4回開催、講習会は1回開催

・農場の検査 105農場 バルク乳 1,292件、個乳 5,339件、同定検査 325件

・感染牛の自主とう汰 4農場 25頭

イ. 農場飼養衛生管理強化対策

農場の飼養衛生管理向上のため、農場が支払った獣医師指導経費に助成。

・指導実施農場 250農場 (乳用牛:219農場、肉用牛:23農場、乳肉複合:8農場)

ウ. 疾病発生・流行防止支援対策

・アカバネ病ワクチン接種 6,105頭 (詳細は、発生予防事業成績(別紙1)のとおり)

(表①)

ヨーネ病自主検査並びに自主とう汰実施頭数(平成30年度)

事業 支部	自主検査頭数										自主とう汰頭数				備考
	血 清				細 菌 培 養				合 計		戸数	乳用牛 頭数	肉用牛 頭数	頭数 合計	
	乳 用 牛		肉 用 牛		乳 用 牛		肉 用 牛		戸数	頭数					
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数							
石 狩	8	10	151	456	0	0	0	0	159	466	0	0	0	0	
道南(渡島)	2	6	319	953	0	0	0	0	321	959	3	1	2	3	
道南(桧山)	0	0	343	681	0	0	0	0	343	681	0	0	0	0	
後 志	0	0	115	301	0	0	0	0	115	301	0	0	0	0	
空 知	11	58	302	727	0	0	0	0	313	785	0	0	0	0	
上 川	41	404	349	914	0	0	0	0	390	1,318	2	3	0	3	
留 萌	2	10	101	229	0	0	0	0	103	239	0	0	0	0	
宗 谷	2	2	102	189	0	0	0	0	104	191	7	6	1	7	
網 走	27	264	936	2,316	0	0	0	0	963	2,580	2	1	1	2	
胆 振	1	1	884	2,195	0	0	6	12	891	2,208	0	0	0	0	
日 高	6	77	1,117	2,674	0	0	0	0	1,123	2,751	3	0	3	3	
十 勝	30	174	1,984	6,394	0	0	0	0	2,014	6,568	50	53	25	78	
釧 路	23	36	335	1,884	0	0	0	0	358	1,920	8	11	6	17	
根 室	192	984	260	526	0	0	0	0	452	1,510	11	19	0	19	
合 計	345	2,026	7,298	20,439	0	0	6	12	7,649	22,477	86	94	38	132	

註 1 自主検査及び自主とう汰の戸数は延べ戸数である。

(表②)

牛ウイルス性下痢・粘膜病検査、予防接種、自主とう汰実施頭数(平成30年度)

事業 支部	検査頭数						予防接種頭数				自主とう汰頭数				備考
	血清				合計		戸数	乳用牛 頭数	肉用牛 頭数	頭数 合計	戸数	乳用牛 頭数	肉用牛 頭数	頭数 合計	
	乳用牛		肉用牛		戸数	頭数									
	戸数	頭数	戸数	頭数											
石狩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
道南(渡島)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
道南(桧山)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	
後志	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
空知	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
上川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	14	3	17	
留萌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	15	1	16	
宗谷	1	11	0	0	1	11	0	0	0	0	11	13	0	13	
網走	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	17	2	19	
胆振	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日高	1	16	0	0	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	
十勝	0	0	2	139	2	139	2	0	107	107	30	30	11	41	
釧路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	18	0	18	
根室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	
合計	2	27	2	139	4	166	2	0	107	107	101	109	19	128	

註 1 自主検査及び自主とう汰の戸数は延べ戸数である。

(2) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業

ア. 事業実施頭数

事業対象死亡牛頭数	左のうち		備考
	BSE検査頭数	検査除外頭数	
38,852頭	38,423頭	429頭	全頭陰性

イ. 死亡牛適正処理推進協議会の開催

開催時期	開催場所	協議内容	参加人員	備考
平成30年10月22日	札幌市	1. 情勢報告 2. 平成29年度事業の実績 3. 平成30年度事業計画・進捗状況	16名	

3. 平成30年度 中央畜産会等助成事業（収益事業等）

(1) 馬飼養衛生管理特別対策事業

ア. 馬飼養管理技術講習会、馬臨床に係る現地検討会の開催

馬関係獣医師の技術並びに馬飼養者の自衛防疫意識の向上を図るため講習会、検討会を開催。

開催時期	開催場所	講師	講習内容	参加人員
平成30年10月26日	苫小牧市	JRA競走馬総合研究所 黒田 泰輔 氏 ほか4名	馬の感染症と抗菌薬治療	100名
平成30年11月15日	新ひだか町	NOSAIみなみ日高支所 佐藤 正人 氏	馬の局所麻酔・静脈麻酔	69名

イ. 地域馬獣医療実態調査

調査時期	調査地域	調査対象	調査内容
平成30年10～11月	上川、留萌、宗谷、網走、十勝、釧路、根室管内	馬飼養農家 507戸 (軽種馬を除く)	衛生管理基準の遵守状況、馬伝染性発生予防対策のアンケート調査

(2) 育成馬等予防接種推進事業

競走馬の馬3種混合（日本脳炎、破傷風、馬インフルエンザ）、日本脳炎、馬インフルエンザ予防接種に助成。

馬3種混合 24,227頭 日本脳炎 2,767頭 馬インフルエンザ 10,527頭

(3) 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業

ア. 馬鼻肺炎予防接種

妊娠馬の馬鼻肺炎ワクチン接種に助成。 (生) 13,725頭 (不活化) 835頭

イ. 馬インフルエンザ予防接種

馬インフルエンザの清浄化の確認と維持を図るため、乗用馬・農用馬等の予防接種に助成。

区分 \ 用途別	実施頭数			合計
	農用馬	乗用馬	その他関連馬	
馬インフルエンザワクチン接種	96	346	130	572

ウ. 地域馬伝染性疾病防疫推進検討会の開催

馬伝染性疾病の防疫強化を図るため、平成30年11月と平成31年2月に開催。

(4) 組織強化対策事業

ア. 衛生体制強化基金事業

自衛防疫活動の充実、強化を図るための情報収集と情報交換を実施。

イ. 農場HACCP取組体制緊急強化事業

農場HACCP認証を普及するため、普及推進のための検討会の開催、農場への啓発活動、農場HACCPシステムの構築指導を実施。

項目	内容
普及推進協議会の開催	平成30年11月8日 帯広市とかちプラザで、生産者、畜産関係者、農場HACCP関係者を参集し、開催（178名参加）
地域啓発活動	平成30年7月及び平成31年2月に農場HACCP審査員を参集し、検討会を開催
農場HACCPシステム構築指導	長沼町（肉用牛）、釧路市（酪農）、士幌町（酪農）、浜中町（養豚）の4農場で実施

ウ. 地域自衛防疫取組促進対策事業

地域における自衛防疫活動の強化を図るため、推進会議の開催、生産者段階での防疫演習の実施、牛マイコプラズマ乳房炎の検査等の助成、牛白血病発生農場の検査、自主とう汰、入きゅう予定馬の馬伝染性貧血検査などに助成。

項目	内容
地域自衛防疫推進会議	平成30年8月及び平成31年3月に札幌市で開催
生産段階での防疫演習	家畜保健衛生所と連携し、新ひだか町、岩見沢市、福島町、網走市、釧路市、今金町、旭川市、江差町、清里町、雄武町、函館市で開催（計11回）
牛マイコプラズマ乳房炎	十勝管内搾乳農場（1,198農場）の採材費、検査料に助成
牛白血病清浄化支援	せたな町の発生農場（1農場）の採材、検査、自主とう汰、吸血昆虫対策に助成
馬伝染性貧血自衛検査	入きゅう予定馬の馬伝染性貧血検査のための採材料、検査料などに助成（助成頭数：2,789頭）

(5) 家畜防疫互助基金支援事業

平成30年度 家畜防疫互助事業生産者積立金額

(単位：戸、頭、円)

区分	家畜の種類	契約戸数	契約頭数	生産者積立金	
乳用牛・肉用牛	1 乳用牛				
	(1) 乳牛(24か月齢以上)	2,630	237,313	55,768,555	
	(2) 乳牛(24か月齢未満)	2,647	155,617	14,783,615	
	2 肉用牛				
	(1) 肉専用種繁殖雌牛(24か月齢以上)	871	35,072	7,891,200	
	(2) 肉専用種繁殖雌牛(24か月齢未満)及び肉専用種肥育牛	877	60,267	6,629,370	
	(3) 肉専用種と乳用種の交雑種肥育牛	178	104,525	10,975,125	
	(4) 乳用種肥育牛	128	123,591	11,741,145	
	計	3,503	716,385	107,789,010	
豚	企業型	(1) 繁殖用種豚(雌)	30	16,925	2,115,625
		(2) 繁殖用種豚(雄)	31	573	71,625
		(3) 肥育豚	31	180,850	6,329,750
		小計	31	198,348	8,517,000
	家族型	(1) 繁殖用種豚(雌)	35	20,833	2,499,960
		(2) 繁殖用種豚(雄)	35	525	63,000
		(3) 肥育豚	35	199,647	5,989,410
	小計	36	221,005	8,552,370	
	計	67	419,353	17,069,370	
合計		3,570	1,135,738	124,858,380	

4. 家畜自衛防疫の推進強化を図る事業

(1) 広報誌等の発行(自衛防疫強化総合対策事業、家畜衛生対策事業)

発行年月	発行部数	標題	執筆者	配布先
平成30年7月	250部	予防注射事業の事務処理要領	道衛指協	衛指協支部、各自衛防疫組合
平成30年10月	1,000部	牛の予防注射プログラム(リフレット)	道衛指協	関係機関、団体、家畜保健衛生所等
平成30年12月	2,100部	流産発生時の対応マニュアル(リフレット)	道衛指協	関係機関、団体、家畜保健衛生所等

(2) 家畜衛生技術普及講習会(講習会事業)

ア. 家畜衛生技術普及講習会(技術者向け)

区分	開催月日	場所	講師	講習内容	参加者
本部	6月4日	札幌市	北海道大学 喜田 宏 氏	第10回鳥インフルエンザ国際シンポジウムに参加して	71名
上川支部	7月18日	旭川市	きたみらい哺育育成センター 小林 中 氏	哺育・育成センターの衛生管理	55名
本部	9月21日	札幌市	北海道大学 迫田 義博 氏	豚コレラについて	89名
日高支部	11月14日	新ひだか町	株式会社微生物化学研究所研究所 小岩 政照 氏	子牛の感染症対策	68名
本部	11月30日	札幌市	コンサルタント獣医 加地 肇 氏	離乳頭数+1頭/腹を旨した繁殖豚管理について	67名
留萌支部	1月16日	小平町	北海道大学 今内 覚 氏	牛白血病について	19名
本部	1月24日、25日	札幌市	東京大学 村上 晋 氏ほか	家畜伝染病等危機管理対策強化講習会	69名
釧路支部	2月14日	釧路市	釧路家畜保健衛生所 枝松 弘樹 氏	26年ぶりに国内で発生した「豚コレラ」と中国で流行している「アフリカ豚コレラ」の解説	60名
合計	8回				498名

イ. 家畜衛生技術普及講習会(農家向け)

区分	牛		豚		鶏		馬		放牧衛生		衛生全般		計	
	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員	回	人員
空知	2	28											2	28
上川	3	117	3	107			1	25					7	249
留萌	2	40											2	40
宗谷	27	275											27	275
網走	4	128											4	128
胆振	2	55			1	39							3	94
十勝	11	130											11	130
合計	51	773	3	107	1	39	1	25	0	0	0	0	56	944

5. 家畜衛生関係団体への協力

鶏病研究会北海道支部、北海道オーエスキー病侵入防止対策協議会、北海道牛削蹄師会、北海道海外悪性伝染病防疫対策協議会(経理担当)の事業推進に協力。